

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	視覚障害教育総論				授業形態	講義			
科目コード	750145	単位数	1単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	中島 浩美							ICT活用	○
授業概要	<p>特別支援教育にとって大切な「障害理解」に関して、障害者観及び根底となる「人間理解」を認識し、視覚の生理・病理、視覚障害の基礎と意味によって視覚障害の基本（概念）を学習する。その後、視覚障害を主体とする特別支援教育と視覚障害児・者の心理、指導法を含む自立活動の総論、及び各論としてコミュニケーション（点字・パソコン等）・歩行（定位と移動）・日常生活動作（ADL；身辺管理等）について全盲と弱視（ロービジョン）を対象とした指導について解説する。加えて、疑似障害体験、障害理解教育と社会啓発（障害者スポーツ）についても触れる。</p> <p>本学では視覚障害領域の特別支援学校免許取得が主目的ではなく、視覚障害教育に関しては「概論」が対象である。しかし、教員になる以上、視覚障害児を指導する可能性は十分考えられる。講義だけでは、時間的、内容的に不十分である。そこで、「視覚障害児のため」時間外の自学自習に時間を当て、授業後にだされる課題に対して、自分自身の考えをまとめることでその不足分を補ってほしい。なお、本授業では視覚障害に加え、知的障害、発達障害など他の障害、特別支援教育、総合的な教育のあり方、障害理解教育や社会啓発の背景となる社会様相や変遷・歴史にも適宜触れる。</p>								
関連する科目	特別支援教育指導法、障害児の心理・生理・病理 障害者スポーツ								
授業の方法と進め方	<p>①基本プレゼンによる講義形式で進める。          ②講義内容により演習をまじえ体験することができるようにする。          ③教材教具、支援機器等は実物に触れるようにする。          ④グループ協議を取り入れ課題解決に当たる。          ⑤実際の教育現場や関係機関と可能な限りリモート等で繋ぎ、疑問に思っていることを解決する。          ⑥障害者（視覚障害者）スポーツを体験する。</p>								
授業計画【第1回】	オリエンテーション・社会と視覚障害者 疑似障害体験（アイマスク着用歩行、介助）。 障害理解・視覚の成り立ち								
授業計画【第2回】	視覚障害乳幼児の発達と支援 視覚特別支援学校幼稚部の取組								
授業計画【第3回】	盲児の指導 触る・聞く・歩く 実体験 弱視児の指導 見やすい環境の整備、教材の工夫、視覚補助具・支援機器、指導の実際								
授業計画【第4回】	点字（演習） 携帯用点字器を使用して 点字ディスプレイ 音声出力と点字出力を用いたパソコン操作								
授業計画【第5回】	教科の指導Ⅰ 視覚障害の特徴を生かして工夫された指導内容 重複障害のある児童生徒の教科の指導 教科の指導Ⅱ 理療科における指導の実際 あん摩、鍼、灸（3領域）の指導								
授業計画【第6回】	視覚障害児童生徒のための教科書（点字図書） 学校図書 点字図書館 自立活動の指導 視覚障害児の自立活動の実際								
授業計画【第7回】	歩行訓練 幼少期の歩行指導 白杖歩行の指導 歩行訓練士 キャリア教育・進路指導 視覚障害者の職業としての三療 ※視覚特別支援学校の取組と課題 現場教員との協議を通して								
授業計画【第8回】	障害者スポーツ 視覚障害者のスポーツ（ゴールボール、フロアバレーボール、STT等） 障害者スポーツ指導員								
授業の到達目標	<p>①障害理解、その基礎としての人間理解を認識する。          ②視覚の整理・病理、及び視覚障害の概念を学習する。          ③視覚障害乳幼児の発達を理解し、適切な支援のあり方を学習する。          ④視覚障害の教育の実際を理解し、特性に応じた指導のあり方を学習する。          ⑤点字に触れ、簡単な点訳ができるようになる。          ⑥自立活動の概要と指導法、歩行、コミュニケーション（点字・パソコン等）、生活動作の3つが主体の社会適応訓練の概要と指導を弱視（ロービジョン）を含め学習する。          ⑦視覚障害児生のキャリア教育・進路指導について理解し、社会啓発、社会の障害者観について学習する。          ⑧視覚障害者スポーツに触れ、障害者スポーツについて学習する。</p>								

学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	次時の内容について、参考図書として示されたものや配布された資料を読み込んで講義内容の概略を理解するとともに、用語等の意味を調べる。(1. 5時間)
授業時間外の学習 【復習】	講義後に出される1～2題の課題について、講義を振り返りながら自分自身の考えを整理し、提出期限を守り提出する。(1. 5時間)
課題に対する フィードバック	①授業では多くの内容を取り上げるため、補助資料を配布し、授業中、授業後に質問された場合はできる限り授業の中で解決できるように答える。 ②授業後の振り返りとして、毎回課題を出し、講義を振り返れるように一緒に考え、次時に解説を行う。 ③アクティブラーニングによる授業形態をとることは困難であるが、アクティブラーニング的な視点を持ちながら講義を進める。
評価方法・基準	①授業に対する積極性(20%)、定期筆記試験(60%)、授業後課題レポート(20%)によって評価する。本授業は障害児・健常児を指導する教員の養成が目的であることを踏まえ評価する。 ②授業に対する積極性を重要したいため、実践、演習等を取り入れ、毎回の授業の振り返りのため、1～2問の課題に対する課題提出を求める。 ③試験はプレゼンテーション資料、配布資料、自作ノート等の持ち込みを可とし実施し、評価する。
テキスト	適宜資料を配布する。授業はパワーポイントによりプレゼンテーション中心に進める。また、教育現場での授業の様子を録画したものを観たり、視覚障害者支援機器等を実際に触れる演習等を行う。できる限り現役教師等からの話や関係者の話を直に聞くことができるようリモート等による取組を組み込んでいく。
参考書	テキストは、「新・視覚障害教育入門」(青柳まゆみ・鳥山由子編著、ジアース教育新社)を参考資料として使用するが、購入の必要はない。 また、参考図書として「視覚障害児・者の理解と支援[新版]」(芝田裕一著、北大路書房)を併用する。 講師が要点をまとめプレゼンテーションテキストを作成し使用する。講義内容に沿った資料を配布し、補助資料として活用する、以下参考として、広島大学氏間和仁研究室のホームページから研究教材、資料等を紹介しながら授業を進めていく。 障害者スポーツにかかる参考図書として、「全国障害者スポーツ大会 競技規則集」を使用する。 その他の参考書等についてはその都度、指示する。
備考	講師は、視覚障害特別支援学校の校長として勤務経験がある。県教育庁特別支援教育指導主事として初任者研修を担当し、特別支援教育全般に精通。前全国盲学校長会理事、九州地区盲学校長会会長を経験。全国の盲学校学校運営の情報を多数持つ。また、宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会理事として、障がい者スポーツの普及に努めている。